



DR-1 フル活用ガイドブック

Portable Digital Recorder ポータブルデジタルレコーダー「DR-1」を120%使いこなす!

The TASCAM DR-1 puts world-dominating power into your pocket. Its built-in stereo microphones include a unique variable angle mechanism, so you can set it to record from any angle. The DR-1 is the first portable recorder to include a 1GB card, so you'll have plenty of CD or MP3-quality recording time for long rehearsals and concerts.



アコースティックギターの録音

アコースティック・ギターの録音にチャレンジしよう!

▶ 詳細へ



会議やセミナーなど会話の録音

会議やセミナーなど会話を中心とした録音では、音量レベルの差にポイントをおきます。

▶ 詳細へ



野外(フィールド)での録音

野外での録音は、ターゲットとなる音源に対し、周囲の音をどの程度入れるかがポイントになります。

▶ 詳細へ



バンドリハーサルなど生演奏の録音

生演奏録音の際に大きなポイントとなるのは録音レベルと各楽器の定位です。

▶ 詳細へ

▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間



アコースティックギターの録音

アコースティック・ギターの録音にチャレンジしよう！

アコースティック・ギター録音のコツは、弦そのものの音と、ボディ共鳴音のバランスをとることです。

基本的には、サウンド・ホールに向けてDR-1をセッティングします。これはサウンド・ホールを狙うことで、その上にある弦の鳴りとサウンド・ホール出音の両方を同時に録ることができるためです。

また、アコースティック・ギターには、様々な演奏スタイルがあり、弾き方の違いで音量や音質などの“出音”が異なります。よって、弾き方に合わせてDR-1の最良のセッティング・ポイントを探してみてください。



CHECK
POINT!

- ①SDカードをセット
- ②電源を準備(残量確認)
- ③内蔵マイクの角度を調整

基本テクニック

アコースティック・ギターは、サウンド・ホールを使って音を出す楽器です。サウンド・ホールに対するDR-1のマイク角度により、アタック感や音質の柔らかさや硬さが変わりますので、メモを取りながらいろいろ試してみましょう。

設置ポイント

迫力のあるサウンドよりも、自然な“鳴り”を録りたい場合は、ややオフマイク(30～50cm)にDR-1をセッティングします。

また、低音弦よりも鳴りの弱い高音弦の音を強調したい時には、やや下側(高音弦側)からサウンド・ホールを斜めに狙います。こうすることにより、サウンド・ホールの音が強調されすぎず、低音弦と高音弦のバランスがとりやすくなります。



応用テクニック

硬い音を強調したいときは、ブリッジ側にDR-1をセッティングします。この時、サウンド・ホールをはずれないよう注意します。

DR-1を少し遠め(斜め上方80cm前後からサウンド・ホールを狙う)にセッティングし、空気感を少し混ぜることで自然な響きを録音することができます。多少音がぼやけた感じになりますが、ギター・ソロなどのダイナミクス感がある演奏を録音する時には効果的です。



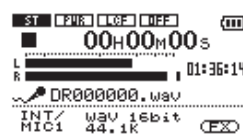
録音&再生手順

内蔵マイクを使っの録音

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。



- ②[REC/PAUSE]キーを押します。
- ③[INPUTボリューム]を使って、入力レベルを調節します(PEAKインジケータが点灯する手前ぐらいにレベルを設定します)。



- ④再び[REC/PAUSE]キーを押します。
- ⑤録音を終了するには[STOP/HOME]キーを押します。

録音後の再生

- ①停止中に[▲/||]キーを押します。
- ②[OUTPUT VOLUME(+,-)]キーを使いモニター音量を調節します。

マイクを使って録音を行うときは、モニターはヘッドホンを使って行ってください。



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではなくDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間



フル活用実践テクニック ② 会議やセミナーなど会話の録音

会議やセミナーなど会話を中心とした録音では、音量レベルの差にポイントをおきます。

参加者の位置(座席)や声の大きさ、音質の違いなどにより、音量にバラツキが出るのが普通です。

INPUTボリュームの調整だけではなく、マイクと音源との距離や向きによって音質が変わることを考慮し、DR-1の設置場所を決めます。

会議が長時間におよぶ可能性がある場合は、録音ファイル形式をMP3(128kbps)にします。

※付属SDカードで18時間38分の長時間録音が可能(ACアダプター使用時)。



CHECK
POINT!

- ①SDカードをセット
- ②電源を準備(残量確認)
- ③内蔵マイクの角度を調整

基本テクニック

会議などの録音では、議事録作成時に聴き取りやすい音量レベルで録音できるかがポイントです。音源(発言者までの距離)が遠い場合には、[GAIN](入力感度)を“HIGH”に設定し、微調整はINPUTボリュームで行います。モニターした際に、環境ノイズ(雑音)が多い場合は、初期設定である“MID”を試してください。学校の講義などでは、モノラル録音も試してみると良いでしょう。

設置ポイント

音声(発言者)が左右に分かれている場合には、DR-1を発言者の間に置くことで、発言者の位置を把握する事も可能です。

また、胸ポケットに入れた状態で録音する場合は、マイクの角度を正面に向くように設定します。全体を均一に録音できる最適な設置ポイントが見つからない場合は、音量差を自動で調整する[オートレベルコントロール]機能をONにすれば大きい音も小さい音も一定のレベルで録音できます。

応用テクニック

講演会、セミナーなどでは講師の説明に音楽や音源の再生を交えることも少なくありません。講義中に突然大きな音が再生されるようであれば、[LEVEL CTRL]を“LMT”に設定しておくことで、音の歪みを抑えることができます。

＜議事録作成に役立つ機能＞

スピードコントロール機能を使って再生スピードを設定(速聞き)すれば、議事録作成の時間短縮が可能です。

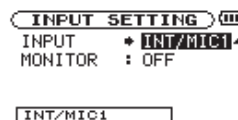
※VSA機能をONにすれば、キーを保ったままスピードを変えることが可能。ループ機能では、ファイル内の任意の区間を繰り返し再生(ループ再生)することができます。



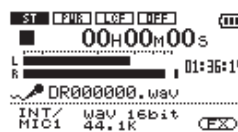
設定手順

内蔵マイクを使っでの録音

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。



- ②[REC/PAUSE]キーを押します。
- ③[INPUTボリューム]を使って、入力レベルを調節します(PEAKインジケータが点灯する手前ぐらいにレベルを設定します)。



- ④再び[REC/PAUSE]キーを押します。
- ⑤録音を終了するには
[STOP/HOME]キーを押します。

オートレベルコントロール機能

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。
- ②[◀]キーや[▶]キーを押して
[INPUT]を反転させてから、ホイールを回します。
- ③[LEVEL CTRL]を選択し“AUTO”を選択します。

録音ファイルを分割したいときは
[STOP/HOME]、中断したいだけなら
[REC/PAUSE]を押します。



- ▶ 高音質だけではなくDR-1の多機能性
- ▶ DR-1の多彩な録音再生機能
- ▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック
- ▶ セットアップ例
- ▶ 記録メディアと録音時間



野外(フィールド)での録音

野外での録音は、ターゲットとなる音源に対し周囲の音をどの程度入れるかがポイントになります。

DR-1は、音を加工したりせずリアルな音質で録れるように設計されていますので、まずは初期設定のまま録音してみます。また、ステレオ録音なら、高音質はもちろん、音の広がりや臨場感もしっかり録音することができます。

録音したファイルを編集し、CDを作成する際には、録音ファイル形式を“WAV:16bit/44.1kHz”に設定しておくくと便利です。

※付属SDカードで1時間41分の長時間録音が可能。



CHECK POINT!

- ①SDカードをセット
- ②電源を準備(残量確認)
- ③入力レベルの調節

基本テクニック

野外の場合、そのとき耳では聞こえていなくても、後で再生すると風の音や低域ノイズが予想以上に録音されていることがあります。

＜野外録音のセッティング手順＞

- ①入力感度(HIGH、MID)を切り替えて試し録りした録音ファイルを比較。
- ②風の音をカットするには、[LOW CUT]機能を使うか、強さに応じアクセサリキット(別売)のウインドスクリーンを装着。

※[LOW CUT]機能ではカットする周波数を“40Hz”、“80Hz”または“120Hz”から選択可能。



設置ポイント

ステレオ録音では、音場の広がり感や奥行きも録ることができます。ポイントは音源となる“小鳥のさえずり”“浜辺の音”“小川のせせらぎ”などを、左右の定位(音像の位置)のどこに位置させるかです。音源が遠くで聞えるイメージにしたり、目の前に感じられるようにしたりと、録音ポジションにより世界観が変わるのを楽しめるのも野外録音の醍醐味です。

応用テクニック

あらかじめ録りたい音源の音量レベルや周囲の音を考慮し、そのイメージに合わせて入力感度の設定と設置ポイントを決めます。

＜電車の通過音を録る場合＞

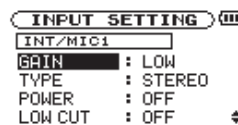
- ①迫力がある音を録りたい場合は、線路寄りの下方向から狙いをつけます。
- ②その場の周囲の音を含めて臨場感を録りたい場合には、線路から距離をおきます。
- ③右から左方向へ通過する音を録りたい場合は、線路に対してDR-1上部を平行に向けます。



設定手順

入力感度[GAIN]の設定

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。



- ②[REC/PAUSE]キーを押します。
- ④[]キーや[]キーを押して[INPUT]を反転させてから、ホイールを回します。
入力レベルが低いときには“HIGH”を、入力レベルが高いときは“MID”を選択します。

[LOW CUT]機能の設定

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。
- ②[]キーや[]キーを押して[INPUT]を反転させてから、ホイールを回します。
- ③[LOW CUT]を選択しカットオフ周波数を選択します。風の音が低いときには“40Hz”または“80Hz”を、高いときには“120Hz”を選択します。

録音&再生どちらも、内蔵エフェクターを使って様々な音響効果をつけることができます。



- ▶ 高音質だけではなくDR-1の多機能性
- ▶ DR-1の多彩な録音再生機能
- ▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック
- ▶ セットアップ例
- ▶ 記録メディアと録音時間



バンドリハーサルなど生演奏の録音

生演奏録音の際に大きなポイントとなるのは、録音レベルと各楽器の定位です。



CHECK POINT!

- ①SDカードをセット
- ②電源を準備(残量確認)
- ③入力レベルの調節

バンド演奏を録音する場合には次のような様々な条件の影響を受けます。

- スタジオの大きさ
- バンド(楽器)編成
- バンド全体の音量レベル
- アンプなどの出力楽器の配置
- ボーカル、管楽器用のPAシステム

バンド演奏の設置ポイントは、演奏中にスタジオ内を移動して一番バランス良く聴こえる場所を探すことです。

また、ボーカルバンドでしたら、ボーカリストの立ち位置がベストなことも少なくありません(歌いやすいポジションというのは、得てしてバランスが良いものです)。

基本テクニック

バンドやライブなどの、大きい音が出る環境での録音で一番失敗しやすいのが音量レベルの設定です。録音したファイルを再生しモニターで確認できればベストです。

バンド演奏の場合は、メンバー全員で最大音量を出した時に音が歪まないように[GAIN](入力感度)を設定します。

また、ライブやコンサートなどの録音の際には、[LEVEL CTRL]を“LMT”にしておけば瞬間的に大きな音が入力されても歪みません。

設置ポイント

バンド演奏の録音は、リード楽器やボーカルの音を基本にする(聴こえやすくすること)ことで全体にまとまりが出やすくなります。また、録音したテイクを聴きながらアレンジなどを施す際にも比較的聴きやすく、スムーズに行うことができます。

各楽器の音量レベルに少なからず影響を受けますので、一概には言えませんが、ドラム/ベースなどの低音楽器付近に設置すると、ボトム感のあるサウンドを録音することができます。



応用テクニック

ベースなどの低音は下の方、ギターなどの高音は上の方に音像定位する傾向がありますので、低域を強調したい場合は床近く、ボーカルやギターをフィーチャーしたい場合は、テーブルなどの上に設置すると音質の傾向を調整することができます。

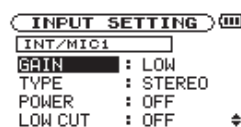
録りたいサウンドイメージに近づくよ



設定手順

入力感度 [GAIN] の設定

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。
- ②[◀▶]キーや[▶▶]キーを押して
[INPUT]を反転させてから、ホイールを回します。
- ④[GAIN]を選択し入力感度を調節します。始めに“MID”で試してみて、入力レベルが低いときには“HIGH”を、入力レベルが高いときは“LOW”を選択します。



[LEVEL CTRL] の設定

- ①[SETTING]キーを押します。
[INT/MIC1]を選択します。



- ②[◀▶]キーや[▶▶]キーを押して
[INPUT]を反転させてから、ホイールを回します。
- ③[LEVEL CTRL]を選択し“LMT”を選択します。

バンド演奏を録音したファイルに、あとから歌やギターなどをオーバーダビングできます。

うに設置することが重要なポイントです。各楽器の近くで収音した録音
ファイルを聴き比べて、コツを掴んでください。

DR-1

Portable Digital Recorder

フル活用ガイドブック



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間

高音質だけではないDR-1の多機能性

DR-1はハンディレコーダーの域を超えた機能が満載！



- ・ 内蔵マイク
- ・ 外部マイク
- ・ ライン入力

- ・ スピード可変
- ・ キートランスポーズ
- ・ ループ/リピート再生
- ・ パートキャンセル

- ・ オーバーダビング機能
- ・ 内蔵エフェクター

- ・ ファイルのバックアップ
- ・ CDの曲を取り込む
- ・ パソコン波形編集

- ・ メトロノーム
- ・ クロマチックチューナー
- ・ オシレーター出力

録る

聴く

創る

PCと繋ぐ

便利機能



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニク

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間

DR-1の多彩な録音再生機能

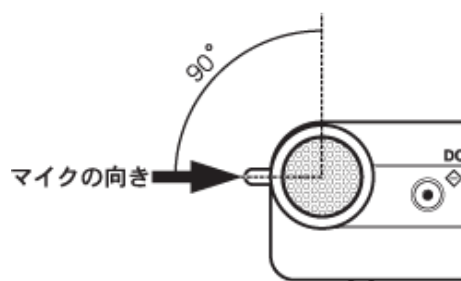
録音も再生も大切にするDR-1ならではの いたれりつくせりな機能を紹介!

DR-1は最高の生録を楽しめる!

【高品位マイクを内蔵】

ステレオコンデンサーマイク: 繊細な音から迫力ある音までを高音質で録音することができます。DR-1は、ステレオコンデンサーを内蔵していますので、音の広がりや臨場感をも録音することができます。

マイクの向きを可変可能: マイクの向きを90度可変できるので、録りたい音源に対してDR-1を水平にしたり垂直にしたり、操作しやすい設置方法が選べます。



【多彩な録音機能】

外部マイク: 標準ジャック(モノラル)、ミニプラグ端子(ステレオ)2系統のマイク接続ができます。

ボーカルをダイナミックマイクで録ったり、エレキギターも直接インプットしたりできる。

録音ファイル: ネット配信またはCDにするなど、録音後の活用方法に合わせて録音ファイル[MP3/WAV]が選べます。

MP3(128kbps)なら付属SDカードで18時間38分の長時間録音が可能(ACアダプター使用時)。

オーバーダビング機能: 録った音に新しい音をミックスして録音することができます。

何度でも重ねられるからマルチトラックレコーダーライクに使える。

左右チャンネルの入れ替え: 設置状況に合わせて定位(左右チャンネル)を入れ替えることができます。

胸ポケットに入れて録音を行う際、実際に聞いている定位(左右)で録音できる。

DR-1は再生機能も凄い!

【再生コントロール機能】

再生のスピードを変える: 音程を変えずにスピード(-50%~+16%)のみを変えられるVSA(Variable Speed Audition)機能を搭載しています。

語学レッスンや議事録起こし(時間短縮可)、楽器練習などに最適。

再生のキーを変える: 曲に合わせて歌を歌うときなどに、上下に6半音の範囲で設定できます。

キーを変えたり、内蔵のリバーブエフェクトをかけたりして、本格的なカラオケが楽しめる。

ボーカルやソロ楽器の音を消す: CDなどの市販音源のリードボーカルやリードギターの音を減衰して再生できます。

自分の好きな曲をカラオケにして練習したり録音したりできる。

繰り返し再生する: ファイル内の任意の区間を繰り返し再生(ループ再生)することができます。

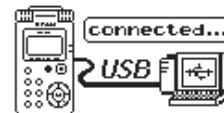
何度も自動で繰り返せるから、語学レッスンや難しい演奏のピンポイント練習に最適。

【外部機器との連動】

パソコンと接続してファイルをバックアップ: 付属のUSBケーブルによりパソコン(Mac/Win)と接続して、録音したオーディオファイルをパソコンで活用できます。

パソコンとUSB接続して充電できる: DR-1の電源を入れなくてもUSB接続中は充電が行われます。

パソコンとUSB接続して曲を取り込む: パソコンからオーディオファイルをコピーしてDR-1で聴くことができます。



ライン入力: LINE IN端子に外部オーディオ機器の出力を接続してダビングできます。

※LINE IN端子を使用する

【便利な機能】

メトロノーム/クロマチックチューナー/オシレーター出力



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間

良い音で録るためのマイキング・テクニック

マイキング・テクニック

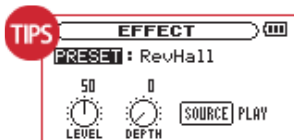
マイキングとは？:ボーカル、ギターなどの生楽器を録音する際にマイクを向けることをマイキングするといいます。マイクの角度、楽器との距離の違いにより録音される音が大きく違ってきますので、録音クオリティーをも左右します。もちろん、フィールドの録音でも同様に、より良い音を録音するためにはDR-1の設置ポジションがカギになります。レコーディングの現場では複数のマイクを使って録音するマルチマイク方式が行われていますが、その際マイクは単一指向性のものがよく使われます(DR-1も単一指向性です)。単一指向性マイクのマイキングで重要な事は、「マイクを音源のどの方向に向けるか」という事です。

STEP 1

音源に対し左、正面、右等と色々な方向や場所に自分の耳を持って行って、それぞれの音を聞いてマイクの位置を決めるのがマイキングの基本です。

STEP 2

次に大切なポイントは、音源とマイクとの距離です。マイクを設置する距離により、空気感が異なるため得られる音はかなり変わります。



部屋のサイズが小さくて距離感が出せない時は、内蔵のエフェクターから「プリセット1 RevHall」などを使用することで、ライブ感を演出した録音ができます。

※エフェクターは、録音したオーディオファイルの再生時にもかけることができます。



オンマイク/オフマイクとは？

音源にマイクを近づけて録るのを“オンマイク”といい、離して録ることを“オフマイク”といいます。レコーディング現場におけるオンマイクは、およそ音源から30cm以内を目安としています。また、音源に近接して録音する“オンマイク”は、実際には普段聴いている音とは違う不自然な音になっています。実際に聴いている音に近い音は“オフマイク”の状態です。

なぜレコーディング現場でオンマイクが多用されるのか？

- ①“近接効果”を利用して迫力のある音を録音したい。
- ②他の楽器との混ざりを少なくしたり、部屋鳴りなどの環境が持つ残響をカットできる。

自然に近い音を録音したいのか、そうではないのかを決めておくことが、実際の録音をスムーズにし、イメージに合わせたサウンドを録音するためのコツです。

COLUMN

近接効果

比較的小さな音源に指向性を持ったマイクを近づけると、録音される音はオフマイクの時と比べて低域が強調されるという特性があり、これを近接効果といいます。

吹かれ

「風」をマイクが「音」と勘違いして、「ぼぼぼ」とか「ぼそぼそ」といったノイズが出てしまうことがありますが、一番多いパターンは歌なり声なりを録るときに、人間の息がマイクにかかることによってノイズが出る場合です。「ばびふべぼ」などの声はマイクに強い息がかかりやすくなり、これを特に「ポップノイズ」といいます。(「LOW CUT」機能、アクセサリキット(別売)のウインドスクリーンで対処できます)

DR-1

Portable Digital Recorder

フル活用ガイドブック



▶ アコースティックギターの録音



▶ 会議やセミナーなど会話の録音



▶ 野外(フィールド)での録音



▶ バンドリハーサルなど生演奏の録音

▶ 高音質だけではなくDR-1の多機能性

▶ DR-1の多彩な録音再生機能

▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック

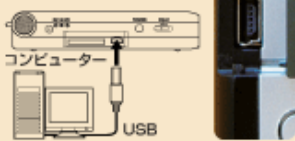
▶ セットアップ例

▶ 記録メディアと録音時間

セットアップ例

PCと繋ぐ

録音ファイルのバックアップやDR-1の充電が行えます。



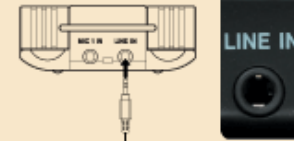
市販の波形編集ソフト(「Sound it!」シリーズなど)や、フリーの波形編集ソフトを使えば、録音したサウンドの長さを変えたりまとめたりなどの編集が可能です。

ワンポイントステレオマイクを繋ぐ



オーディオ機器と繋ぐ

カセットテープなど、アナログ音源のデジタル化が可能です。

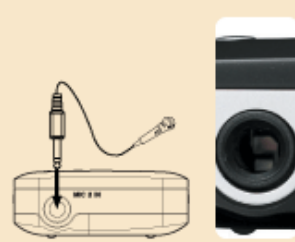


SDカードに記録する

DR-1は1GBのSDカードを付属しています。最大32GBのSDHCカードまで対応しています。



ギターやマイクを繋ぐ



ヘッドホンを繋ぐ

アンプ付きスピーカーまたはオーディオシステムに繋ぐ。





- ▶ 高音質だけではないDR-1の多機能性
- ▶ DR-1の多彩な録音再生機能
- ▶ 良い音で録るためのマイキング・テクニック
- ▶ セットアップ例
- ▶ 記録メディアと録音時間

記録メディアと録音時間

記録メディア

DR-1は、本体に装着したSDカードに録音した音をオーディオファイルとして記録していきます。

■DR-1で利用できるSDカードの種類と記録容量

- ・ SDカード-----64MB～2GB
- ・ SDHCカード----4GB～32GB

■対応オーディオファイル

- ・ MP3ファイル: 32kbps～320kbps、サンプリング周波数[44.1kHz/48kHz]
- ・ WAVファイル: ビット長[16/24bit]、サンプリング周波数[44.1kHz/48kHz]

録音時間

■SD/SDHCカード録音時間

ファイルフォーマット (録音時の設定)			SD/SDHCカード容量			
			1GB	2GB	4GB	8GB
WAV	16bit	44.1kHz	1時間41分	3時間22分	6時間44分	13時間28分
		48kHz	1時間33分	3時間6分	6時間12分	12時間24分
	24bit	44.1kHz	1時間 7分	2時間15分	4時間30分	9時間
		48kHz	1時間2分	2時間4分	4時間 8分	8時間16分
MP3	32kbps	44.1kHz/48kHz	74時間32分	149時間4分	298時間8分	596時間16分
	64kbps	44.1kHz/48kHz	37時間16分	74時間32分	149時間4分	298時間8分
	96kbps	44.1kHz/48kHz	24時間50分	49時間40分	99時間20分	198時間40分
	128kbps	44.1kHz/48kHz	18時間38分	37時間16分	74時間32分	149時間4分
	192kbps	44.1kHz/48kHz	12時間25分	24時間50分	49時間40分	99時間20分
	256kbps	44.1kHz/48kHz	9時間19分	18時間37分	37時間16分	74時間32分
	320kbps	44.1kHz/48kHz	7時間27分	14時間54分	29時間48分	59時間36分

※付属のSDカードは1GBです。

※上記録音時間は目安です。ご使用のSD/SDHCカードにより異なる場合があります。

※上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD/SDHCカードに録音可能な合計時間になります。

※連続録音時間は、録音の際の最大ファイルサイズ設定により制限されます。また、23時間59分を越えることはできません。設定可能な最大ファイルサイズは2GBです。

■連続録音時間

ファイルフォーマット (録音時の設定)			最大ファイルサイズ設定 (REC SETTING → SIZE)					
			64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
WAV	16bit	44.1kHz	6分	12分	25分	50分	1時間41分	3時間22分
		48kHz	5分	11分	23分	46分	1時間33分	3時間6分
	24bit	44.1kHz	4分	8分	16分	33分	1時間7分	2時間15分
		48kHz	3分	7分	15分	31分	1時間2分	2時間4分
MP3	32kbps	44.1kHz/48kHz	4時間39分	9時間19分	18時間38分	23時間59分	23時間59分	23時間59分
	64kbps	44.1kHz/48kHz	2時間19分	4時間39分	9時間19分	18時間38分	23時間59分	23時間59分
	96kbps	44.1kHz/48kHz	1時間33分	3時間6分	6時間12分	12時間25分	23時間59分	23時間59分
	128kbps	44.1kHz/48kHz	1時間9分	2時間19分	4時間39分	9時間19分	18時間38分	23時間59分
	192kbps	44.1kHz/48kHz	46分	1時間33分	3時間6分	6時間12分	12時間25分	23時間59分
	256kbps	44.1kHz/48kHz	34分	1時間9分	2時間19分	4時間39分	9時間19分	18時間37分
	320kbps	44.1kHz/48kHz	27分	55分	1時間51分	3時間43分	7時間27分	14時間54分

※上記録音時間は目安です。

■最大ファイルサイズ

DR-1は、作成するオーディオファイルの最大ファイルサイズを設定することができます。オーディオを録音中、設定した最大ファイルサイズに達すると自動的に録音が終了します。

※連続録音時間は、最大ファイルサイズの設定およびファイル形式により異なります。

ファイル管理

■パソコンにオーディオファイルを取り込む

録音したオーディオファイルは、パソコン(Windows/Macintosh)と接続して整理すると簡単です。
パソコンに取り込んだオーディオファイルは、新規フォルダを作成し、「日付」「会議」「バンドリハーサル」「バードウォッチング」「鉄道」などの名前をつけて管理しておくことでファイルを探す手間が省けて便利です。

<HINT>

- ・ フォルダ、ファイルには日本語で名前をつけることができます。
- ・ 長いファイル名はDR-1のディスプレイでは自動的にスクロールして表示されます。

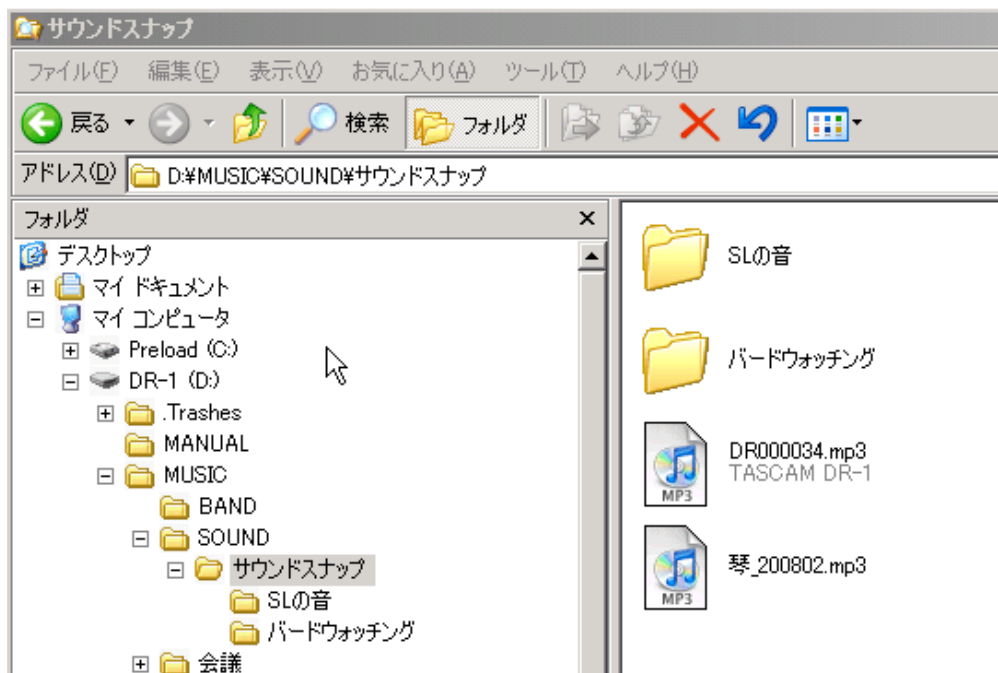
■パソコンからオーディオファイルを取り込む

DR-1の再生素材として、パソコン(Windows/Macintosh)からオーディオファイルを取り込むことができます。
パソコン上の希望のオーディオファイルを、DR-1(SDカード)の[MUSIC]フォルダにドラッグ&ドロップします。

<HINT>

- ・ DR-1(SDカード)内にはいくつかのフォルダがすでに用意されています。
- ・ DR-1(SDカード)の[MUSIC]フォルダ内には、サブフォルダを2階層下まで作成することができます。

下記の図では[MUSIC]フォルダの下での[SOUND]フォルダと[サウンドスナップ]フォルダの中のオーディオファイル「琴_200802.mp3」はDR-1のディスプレイ上で見ることができ、再生もできますが、[SLの音]フォルダなど3階層目は認識されないため、見ることも再生もできません。



■DR-1での再生設定

- ・ PLAY MODEでAREAをALL FILESとしたときはすべてのフォルダのオーディオファイルを再生できます。
- ・ PLAY MODEでAREAをFOLDERとしたときはBROUSEで指定したフォルダ内のオーディオファイルのみ再生することができます。

<オーディオファイルの取り込み方法>

方法は2つあります。

- (1) 付属USBケーブルでDR-1とパソコンを接続
- (2) SDカードを直接(あるいはカードアダプターを使って)パソコンにセット

※付属USBケーブルでPCと接続したときはDR-1本体はPCの外付けメディアとして認識されます。
また、接続中（充電あるいはデータコピー作業など）はDR-1本体の操作はできません。

COLUMN

MP3/WAVは、音声データのファイル形式です。

WAV

Windows標準の音声ファイルの形式で、他に「WAVE形式」とも呼ばれ、非圧縮のリニアPCMフォーマットです。拡張子は.wav。

MP3

音声圧縮方式の一つで、最も広く普及しています。『MPEG Audio Layer-3』の略称。

128kbpsの圧縮では、音楽を楽しむことができる音質を保ったまま、データ量を約1/10に圧縮することができます。拡張子は.mp3。

音声ファイル

音声信号をデジタルデータに変換したものを記録するための保存形式です。

非圧縮型にはWAV、非可逆圧縮型にはMP3、AIFFなどがあります。